第３回　南砺市協働のまちづくり推進会議　　議事要旨

■日　時：平成 29 年 1 月 13 日（金）　19:00～20：50
■場　所：南砺市役所福野庁舎　２階講堂
■出席者：委員１６名、市長、事務局５名
〔委員〕
磯部文雄、今川浩美、上坂正治、江田攻（副委員長）、江田久嗣、沖田光弘、長田正勝、栗山芳雄、武田和一、名村桂子、能登貴史、林則雄（委員長）、堀豊次、松本浩希、森川武雄、安居時美
※敬称略、五十音順に表記
〔南砺市長〕田中幹夫
〔事務局〕
市民協働部長　吉澤昇
南砺で暮らしません課　課長 市川孝弘、副主幹 石本裕、副主幹　石崎裕子、主事　影近宏紀
■欠席者：４名（河合朱希代、齋藤よし子、法邑千映子、安居範光）
※敬称略、五十音順に表記
■傍聴者：無し

■議事次第
１．開会
２．委員長挨拶
３．市長への提言
（１）提言書の提出（委員長から市長へ）
（２）提言書の説明（委員長）
（３）意見交換
４．市長あいさつ
５．閉会

■議事要旨
２．委員長挨拶
１昨年の１月に委嘱され、南砺市まちづくり基本条例の運用を学び、昨年の１月に提言を出し回答を頂いた。その回答について意見交換し、今回はそれをまとめたものである。まちづくりに対して温度差が行政の中にも市民の中にもあり、今回の提言は、協働のまちづくりの推進に観点を置き３点にまとめた。
３（２）提言書の説明
委員長が提言書を読み上げ説明。
３（３）意見交換について

発言者	意見
A 委員	まちづくりについて絵に画くのは簡単だがプレーヤーは誰か？　行政ではなく市民がプレーヤーである。その場作りが欲しい。それが今回の提言の骨子である。役所と市民が協働しないとできない。
B 委員	まちづくりの主体は市民であり、地域課題を解決するには市民の総参加が必要である。無理をしたものではなく皆の総意を得て解決できる参加方法が良いと思う。皆が課題を自分事として捉え解決するのが良い。南砺に合ったレベルの解決方法が良い。
市長	・協働を進める中で、市として足りない、難しい面が出てきた事を理解できる。私も悩んだ。

	協働＝自治振興会や自治会とする面が強くなりすぎた。そうではなく、市のそれぞれの課といろんな団体の協働も必要。今回の３つの提言は本当に大事な事。 ・小さな課題を１つ１つ潰すのが大事、小さな成功例を積み上げるのが大事、それによって協働が広がっていく。
C 委員	・推進会議の中で、地域によって温度差があることについて話した。「総働」という新しい言葉がいきなり出てきたが提言２の勉強会にて話していきたい。 ・協働のまちづくりは自治振興会を中心としていたが、振興会がうまく機能していない場合もある。個人的に振興会の再編まで話した方が良い時期かと思う。
市長	・合併による南砺市のスタート時は、振興会が無いところがあった。最初はとりあえず組織を作るのがスタートだった。 ・住民自治のあり方の勉強会をするのが大事。 ・振興会毎のエリアの広さや環境の違いにより、それぞれの良いやり方がある。
D 委員	公民館は社会教育法で動いている。近年、市民を主体にして行政を動かそうというブームが来た。今までは公民館を中心にイベントをしていた。まちづくりに貢献してきた。まちづくり基本条例が出た時に、まちづくりなのに公民館や社協が出てこなかった。
市長	住民自治はどこがやるのか？　住民自治＝自治振興会でもあり、振興会の中に社協や公民館や消防団、その他いろんな団体がいる。
E 委員	・２年間町内会長をしてきた。自治振興会は温度差がある。まとまりのない活動となっている面もある。 ・婦人会は町の中で壊滅状態であり、これからどうあるべきか提言２の勉強会で話していきたい。 ・自治会長は任期だけこなせば良いという考えがある。そんな人の集まりでは振興会が機能しなかったから、勉強会をして主張していきたい。 ・市からいろんなことをやれということが、自治会長に来て負担。
F 委員	条例をつくるときに危惧されていたことかと思う。組織についてどう市が考えるか、どうあるべきか考えていくべき。婦人会も無くなる。団体や組織を整理していく必要がある。
市長	市が組織のあり方を言うのではなく、市は地域が動きやすい体制をつくるべき。市は婦人会に負担をかけていた。役もたくさん毎年当たっており、市の反省点である。
B 委員	市は振興会を重視しており、地域をまとめる役割を振興会には持ってほしい。課題について前に出ていく組織とはなっていない。総働をするには今の振興会では難しい。変えていく必要がある。
G 委員	まちづくりの母体は、私のところでは振興会で良い。
H 委員	提言の１番目は市民会議である。条例をつくるときから参加して市民会議が好きになった。言いたいことを言えた。この環境をこれからも進めていきたい。
市長	市民会議時の思いを忘れてはいけない。勉強会をコツコツ進めながら、一気に変わるところまで進めていきたい。要望と陳情ばかりではなく、試行錯誤しながら行い、やりがいがあって成功するのが良い。
I 委員	・自分の振興会では１６区あり、まちづくりの話をしても意見を出すのは１割の方ぐらいで熱くない状況。区長ではなく班長の小さいチームをつくり、仕掛けをつくった方が良いのかもしれないと思っている。 ・振興会の１丁目１番地は防災や防犯であり、それを進めることで、まちづくりの話題が広まると思う。
市長	議論の手法は大事。ファシリテーターも必要であり、話が出やすくなる。ファシリテーターを送り込むのは良いかもしれない。

A 委員	課題解決型のまちづくりが必要であり、今までのイベントのまちづくりも大事だが、ビジョンを作っていくまちづくりがこれから大事。人口減少の中で現在のレベルを捉え、対処方法を変える必要がある。何もしないと２０年後の未来の姿が怖い。
J 委員	提言書を出すためだけの推進会議であってはならない。今までの反省事項も多かった。今回の提言書の中での新しい言語について異論もあったが、温度差を縮めていく必要がある。
K 委員	自分はモデル事業の団体である。私の地域では成人クラブ活動が盛んでシンポジウムを多くしている。モデル事業を始めたのは、皆で何かやろうということから始まった。また何かやりたい気持ちがある。まちづくりは上から下への意見が向かうようでは駄目。下から上へ意見があがっていくことが大事。下から湧き上げる活動がまちづくりに繋がる。
L 委員	・各種団体の上部組織の今後のあり方を考えなくてはいけない。婦人会もそれで潰れた。 ・市職員の中でも温度差を無くし、地域を引っ張って欲しい。
M 委員	婦人会が無くなったとしても、地域と婦人のつながる組織が必要。志の高い人が繋がる必要がある。
N 委員	市長の当初の立候補時に協働のまちづくりを言われ、面白いと思った。入口がわからなかったが、条例をつくる人の募集を始め、それから南砺市に関わった。それから８年の間いろんな委員に市民が参加できるようになった。委員公募だけでも協働のまちづくりの取り組みとして良かった。だが問題もある。計画や政策の立案にはほぼ関われない。できあがったものに対してしか意見が言えない。立案からできると市は変われる。そのために、今回の３つの提言を是非すすめていきたい。
副委員長	お願いがある。ＰＤＣＡは市民を意識した廻し方をしなければならない。市民に総働を求めていくのであれば、意見を聞く、方向を決め、再度市民会議にフィードバックし意見を聞くと共に実際に動いてくれる人を集める必要がある。その際、この指とまれ的にアピールすれば、興味のある方は集まり意見が採用してもらえると思い、人が来ると思う。市民が参画したいという思いをさせないと総働はうまくいかない。
市長	・立案についての反省として、公募委員の割合で満足していたという面がある。戦略事業のメニュー提案はワークショップから始まった。その時、市民も職員も同等であった。意見をフィードバックしないから公募委員も足りなくなる。ルーティーンワークではいけない。計画を作る時に発表の仕方も考えていくべき。地域の活動を行っていくためにモデル事業を行ってきたが応募も減ってきたので、地域づくりについて皆さんから意見がもらえればと思う。
D 委員	働いている人は、そんなに市役所に来られない。市民は結構冷めている。また、立案の段階からというのは分かるが、物事がスムーズに進みにくくなる。
C 委員	提言３の広報なんとへの掲載をしっかりやってほしい。推進会議について、市民にとっては秘密会議のイメージしかないかもしれないし。またいつも同じメンバーでもいけない。
市長	小中学生にふるさと教育や市の政策を勉強する機会を設けて市政に活かしていくのもいいかもしれない。
A 委員	市役所にお客さんが来ないなら、来てもらえるよう工夫すべき。南砺で暮らしません課がうまくいかなければ南砺市はうまくいかない。まちづくりが上手くいかなければ南砺市の経営が成り立たないという危機感を持たなければいけない。皆が１０年後について危機感を持ち、市民一人一人が意識を高めなければいけない。
N 委員	学生にも協働のまちづくりを学ばせるべき。中学生に社会勉強させるべき。
市長	・施設再編計画や人口減少問題など、暗い未来を子どもに言うのではないようにしたい。まずは若い人にまちづくりを知ってもらう必要がある。若者や未来に住む人達がどのように生活していきたいか策を考えていけるようにしたい。 ・南砺で暮らしません課へ人がたくさんくる仕組みが必要。

B 委員	市民の意見が反映できないということなら、暮らしません課の方へ市民グループからの意見が集まるような方法があればいいなと思う。
市長	南砺で暮らしません課はアスモの２階にあるが、人が集まるような仕組みをつくるということで設置されている。
委員長	様々な人が集まり、課題を解決できるということが、地域力である。

４．市長挨拶

これからも提言をいただき、さらにまちづくりを進展していきたいと思う。これから厳しい時代なので優先順位をつけて取り組むことにはなるが、８年前に市長に就任してからやり方と見方と進め方は変わりないつもりだ。これからも皆さんの意見をざっくばらんにいただければと思います。皆さんありがとうございました。

５．閉会挨拶（副委員長）

平成２２年から始まった推進会議であり、私たちは２期目であり２回目の提言書の提出です。４月以降もう一度委員になる人もいると思います。まちづくり基本条例を活かした南砺市になればいいなと思います。